



おか ゆき お  
**岡 幸 男**

けんとう  
**県都クラブ**

**一身田寺内町の日本遺産認定を**

**問** 文化庁が取り組んでいる事業として、日本遺産登録事業がある。

国宝や重要文化財がある高田本山専修寺と、これまでの町づくり交付金事業での修景整備や、津市景観重点地区での取り組みを生かして、一身田寺内町の日本遺産認定を目指してはどうか。

**答** 日本遺産の認定は、平成27年度から始まった新しい制度で、市内では、一身田寺内町、多気北畠氏遺跡、津城跡を中心とする文化財群が対象となると考えている。認定を受けることは、歴史を生かしたまちづくりの面からも非常に魅力があるため、必要となるまちづくり整備計画や先行事例などを十分に研究し、前向きに取り組んでいく。



●その他の質疑・質問●

- 津市防災計画修正案、熊本地震検証からの修正点は
- 人口減少と財政状況の中、公共施設・上下水道の将来計画は
- 警察と連携して、犯罪発生の危険箇所を把握し、防犯灯・防犯カメラの設置等地域防犯を
- 除草作業において、見通しのきかない箇所の防草処理を
- 市道浜田長岡線しんちよくの道路改良工事の進捗状況と早急な完成を



▲昔の風情が残る一身田寺内町



よこ やま あつ こ  
**横 山 敦 子**

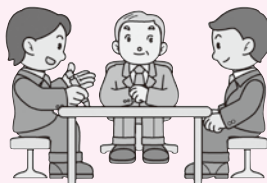
こうめいとうぎいんだん  
**公明党議員団**

**困窮者支援施行後1年半、見えてきた課題は**

**問** 生活困窮者自立支援制度、一言では「人が人を支援する」ことに尽き、相談者をいかに制度に結び付けることができるかというコーディネート機能と連携が重要である。津市における課題としては、福祉部局内の連携のみで留まっている現状がある。それに加え多様な他機関との顔の見える連携が重要である。現状を踏まえ見解を伺う。

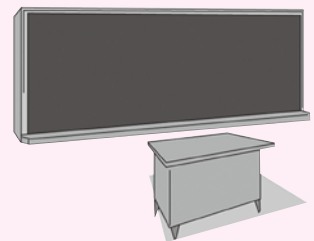
**答** 生活困窮者支援調整会議を設置し、サービスの調整をしていく中で、支援プランに関する委員の意見を聞き、一人一人の状況に応じたプランを作成している。会議の委員は、委嘱という方法を取っていることから、少し限られた形になる。

また、日頃から庁内の情報共有や連携を図るための場については、必要であると考えており、以前の定例会で「福祉部門だけでなく、労働行政や教育部門、社会福祉協議会などとの幅広い連携とネットワークづくりを始める」と答弁していることを踏まえ、一生懸命取り組んでいく。



●その他の質疑・質問●

- 学校統廃合の跡地利活用の方針を明確に
- 生活保護職員体制のさらなる強化と研修育成の充実徹底を



▲複数の問題を抱える相談者に寄り添う相談窓口の充実を